

神の国にはいるには、努力して狭い門から入る

「心のバランス感覚」ぐうの音も出ない時どうするか

ルカ14:1-6

■考えること＝バランスを保つこと

子どもはたくさんの「なぜ？」を持っています。

- ・反省の色は何色だろう
- ・おばさんは何歳からおばさんなのだろう
- ・ヘビの尻尾はどこから尻尾なのだろう

子どもは疑問に対して考えることで、「バランス」を学んでいるのです。トレーニングやストレッチで体のバランスを整えることが大事であるように、私たちの考え方のバランスも大事です。

特に、予期せぬことが起こった時、バランスを保てているのでしょうか。私たちの過去の経験や出来事、また世の中の情報に大きく影響されて、心が揺れてしまう。私たちは、間違っただけの判断をしないように気を付けなければなりません。NPO 真庭あぐりガーデンプロジェクトの「お節介プロジェクト」がGOOD LIFE AWARDを受賞しました。「お節介」という愛が、地域を本来の姿に戻し、そこにキリストの栄光が表されていきます。そのことを信じてこれからも種を蒔き続けていきましょう。

■【振り返り】あなたはどちらの国に生きるのか？

今、インフルエンザが流行っています。神様は私たちの中にあるミクロのような問題（悪）をも用いて、私たちが強くなるチャンスを与えてくださいます。私たちが病や苦難、患難の中にあつて弱い時に「どのような行動を取るのか」、それによって『生死感』を理解することができるのです。自分の病や苦難に目を向けるのか、それとも親である神様の『息子』として、その自身に与えられた訓練の中に何ががあるのかを考え、見出ししていくのか。そこに私たちの『行き先』が見えてきます。『行きたくないところ』、そこには病や問題がありますが、その上（神様）を『見上げる』ことで『最善』を選ぶことができます。

神様を見るのが『収穫の源』であり、たとえ『足の土台』が揺らぐようなことがあつたとしても、前を向いて進むことができるのです。だからこそ、自分が間違つて進んでいるなら、『悔いて改め』て戻らなければいけません。あなたはどこに宝（人生）を積むのか。人の評価や賞賛ではなく、神様から与えられたものを忠実にやり、『天国の銀行』に宝を積むことが大切です。もしこれを間違つたと『勿体ない』、『罪を認めて、相手を赦し』、いつも『愛の結果の回復』がもたらされることを信じて歩んでいくのです。

■神の国に入る者「心のバランス感覚」

私たちは、多くの者が王道に雪崩のように進んでいく中で、努力して狭い門から入らなければなりません。そこには人の道ではなく神様の計画が生きて、たとえ誘惑の中にあつても守られ、翼の中に養われます。今回のテーマは、私たちが翼の中から出ていくときに起こることです。道を歩く時、地面の上で歩くことは簡単ですが、ビルの屋上で歩くとは怖くなるように、私たちの人生でも、周りで起こっていることや過去の経験から、まだ起こつてもいないことに影響され、同じ道であつたとしても歩めなくなるのです。

「努力して狭い門から入りなさい」それは私たちが人の目線からくるもので判断せず、たとえ1人でも「雄々しく」神様の道を歩むことで始まるのです。

■（ルカ14:1~6から）

■イエスとパリサイ派の人々との食卓

パリサイ派のある指導者がイエスを食卓に招きました。それは決して好意的な思いからではなく、水腫をわずらっていた人を利用してイエスを異にはめるために企んでいたのです。しかしイエスは先手を打ち、「安息日に病気を直すことは正しいことですか、それともよくないことですか」と言われました。イエスは、彼らの企みを知っておられ、彼らが黙っているのを見て、その水腫をわずらっていた人を抱いて直し、お帰しになりました。そして、彼らに「罪に落ちている人が目の前にいるのに、愛して助けようとしませんか」と聞かれると、大前提である愛を持って関わるのができなかったパリサイ派の人たちはぐうの音も出ませんでした。

■心のバランス感覚を取るために

3つのポイントを学びました。

- ①自分はずれていないか
- ②愛があるか

③神の意図とあっているか

神様の行いには意図があり、どんな病や問題からも栄光を見せることができます。

しかし、私たちにズレた価値観があり、その栄光を見ることが出来ず、マイナスな出来事に影響されてしまいます。私たちの心が揺らぐような予期せぬことが起こる時、神様の意図が何なのかを見定める必要があります。そのために、私たちは今起こっている様々な出来事に対して「なぜ？」と考えることが大切です。なぜなら、それは私たちが神様の奥義を学ぶために起こっているからなのです。

心のバランスは、自分が立っている場所から外れることなく、たとえ周囲がどうなるうとしっかりと立ち続けることができるかどうかで問われます。もし、立っている場所がズレていくなれば、神様の意図から外れ、わからなくなっていくのです。

神様は、いろいろな出来事を通して、私たちがブレない強さを持つように関わってください。その時に私たちはどうするのか。どうすれば、他に目を向けることなくまっすぐ向いて立ち続けることができるのか、考えなければなりません。

■ずれた目線

5年生のA君と担任の先生のお話がありました。

クリスチャンで生徒を愛していた先生と、素行が悪くだらしない姿のA君。先生はどうしてもその子だけは愛することが出来ずにいました。しかしある日、先生はA君の1年生からの記録を発見し、そこには、A君が本当は明るく、勉強も良く出来て、幸せそうな姿だったこと。母親が病気になるにだんだんと生活が難しくなつていったこと。そして母親が亡くなり、父親との関係が壊れてしまい、何も希望を見出せない姿になってしまったことが書かれていました。A君の全てを知り、本当に理解した時、先生は正しい判断（行動）を取ることができました。その結果、その子の人生にとって最高で最愛の先生としてそこからの人生を引き上げる（愛して助ける）働きとなつたのです。

■神の意図とは

神様がなぜあなたにその環境を与え、なぜそこを通させているのか。なぜ、今そこにいるのか。そこに必ず神の意図があるのです。パリサイ人はズレていたもので、目の前にいた病に苦しんでいる人を助けることよりも、イエスを異をかけることを見ていました。その人が苦しんでいるのに、自分の目的を果たすためにその人を利用し、道具にしようとした。

自分の栄誉のため、評価のため、自己満足のため、欲のために相手をも殺すのが人間です。しかし神様は、今の環境を通して目線を少し変えることで、人の人生を大きく変える力があると伝えています。

私たちがなぜ今の環境に置かれているのか、それは私たちが本来の姿に戻るためであり、神様の愛によって与えられているのです。神の意図とは、私たちが滅びの道に向かわないために、本当の道を示してください。神様の愛なのです。

さいごに

あなたは神の意図が見えていますか？感じていますか？

もしまだわからないのであれば考える必要があります。

もし感じる事ができたならば、ズレていた目線を変える決断をする必要があります。

神の意図を理解し、その道に向かってまっすぐ立ち、歩むことが出来るように祈りましょう。

（要約者：藤林 把宇路）

（2023年12月3日）